



ボランティア紹介リレー

第27回

今回は、『いちのみや大学』からの紹介で、『りぶらぼ 一宮市の図書館イベントボランティア』をご紹介します。

「りぶらぼ 一宮市の図書館イベントボランティア」とは？

「図書館×まちづくり」をテーマに、まちづくりのために図書館がどのように活用できるのかを考えている団体です。岐阜市や豊橋市に魅力的な図書館が生まれていますが、それらの図書館はまちの中でどのような役割を果たすのか、多くの対話を経て作られました。一宮市でも、本当にほしい図書館とは何かを考える土壌を作りたいと思っています。



主な活動や目的は？

まちのイベントへ出展し読書推進活動を行ったり、図書館イベントへの協力を行っています。昨年は「138 ARTBOOK PROJECT」を立ち上げ、一宮市のこれからを考える本を出版しました。また「いちのみやブックスワップ」という本の交換会を立ち上げたり、図書館の「子ども司書講座」の講師をしています。



活動のやりがいは？

図書館は人生のあらゆるステージで必要となる施設です。図書館を活用する人が多くなるほど、そのまちは心豊かな成熟したまちになります。まちに出て読書推進活動をしたり、子どもたちと図書館のことを考える活動をしていると、まちの文化とは何かを考える場面にたくさん出会います。そうやって思考を深めていくことに、大変な喜びがあります。



市民の皆様へひとこと

今年から始まったのが、図書館に中高生をメインとしたボランティア団体を立ち上げる取り組みです。図書館で、中高生たちがやりたいことを実現していくという活動をしています。これを支える大人サポーターを募集しておりますので、ご興味のある方はぜひお問い合わせください。いっしょに一宮市の図書館を盛り上げていきましょう。

【問合せ】 本部 Tel85-7024



おすすめ福祉の本



図書館で借りることができます。

たっちゃんぼくがきらいなの —たっちゃんはいじめいしょう(自閉症)

さとう としなお/作 みやもと ただお/絵 岩崎書店

たっちゃんと一緒に遊びたい「ぼく」。手をつないでもにげちゃう、いきなり大声をだすたっちゃん。「ぼく」はたっちゃんに対する多くの疑問を持ちます。先生はその疑問に答え、あたたかい視線でたっちゃんについて語ります。

子どもの視点からみた自閉症に対する疑問に分かりやすい言葉で優しく説明されています。自閉症について、理解を深めることのできる作品です。巻末に児童精神科医師の解説もあります。